

が位置している 19 番染色体を、平均 1cM 間隔のマイクロサテライトマーカーで解析した結果について報告する。

## 6 Fc $\gamma$ レセプター遺伝子型と歯周炎・SLE 感受性との関連

小林 哲夫\*, \*\*・伊藤 聡\*\*\*

山本 幸司\*・成田 一衛\*\*\*

下条 文武\*\*\*・吉江 弘正\*

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
摂食環境制御学講座歯周診断・再  
建学分野 (第二保存科) \*

新潟大学歯学部附属病院総合診療  
部\*\*

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
内部環境医学講座腎・膠原病内科  
学分野 (第二内科) \*\*\*

Fc $\gamma$ レセプター (Fc $\gamma$ R) は、1q23-24 に cluster を形成する免疫グロブリン G (IgG) Fc 領域と結合する細胞表面分子であり、液性一細胞性免疫の橋渡しをする免疫応答制御因子である。歯周炎では、細菌感染により血清・歯周組織局所での IgG 産生が亢進しており IgG-Fc $\gamma$ R を介した機能は生体防御で重要である。それ故、3 種の機能

的 Fc $\gamma$ R 遺伝子多型 (Fc $\gamma$ R-II A-R/H131, -III A-158V/F, -III B-NA1/NA2) は歯周炎感受性を規定する可能性が考えられる。

演者らの研究結果では、歯周炎の早期発症性は Fc $\gamma$ R-III B 遺伝子が関与し、歯周炎重症度は主に Fc $\gamma$ R-III A 遺伝子が関連することが判明した。また、歯周治療後の再発性は Fc $\gamma$ R-III A, -III B 両方の遺伝子との関連が認められた。更に、IgG-Fc $\gamma$ R を介した機能は歯周炎だけでなく全身性エリテマトーデス (SLE) の病因にも関与しており、Fc $\gamma$ R-II A 遺伝子が SLE と歯周炎の共通リスク遺伝子である可能性が示唆された。

今後は、インベーター法による 50 種の遺伝子多型解析により、疾患感受性の候補遺伝子アプローチを更に進めていきたい。

## II. 特別講演

「ゲノム解析を基盤とした医療への応用をめざして」

東京大学大学院医学研究科神経内科学教授

辻 省次